

雛形と裂地展

雛形とは、実物をかたどって小さく作ったり、図などに書いたものをいい。裂とは、布帛の裁ち残った切端のことである。裂の価値は、古裂などの鑑賞価値は勿論であるが、今後の製織の参考として、加工技術・染色の色合せの資料、商売上の見本など利用価値は高い。

今回は、黒川文庫所蔵の雛形（有職服飾）の一部と、特殊資料室に収蔵されている裂地見本及び各種服飾の図柄見本を展示する。

- 1 烏帽子雛形 (黒川文庫)
紙製黒漆塗16種 明治24年添書 甲斐塩山麓農家所伝・備中国農家所伝他 美加乃舎
黒川家に古くより所蔵されていたものを、明治24年黒川真道が調べて、付箋をつけたりしたらしい。朱筆も真道の書入れたものらしいが、不明である。紙に黒漆を塗ってあるが、実際の烏帽子は、薄い絹に漆を塗って固くしてある。
- 2 典侍装束一具雛形 (黒川文庫)
紙製7種 天保二年(1831)水無月廿九日 美加乃舎袋書
和紙を裁断して作った装束雛形で、袋に天保二年としてある。
単(ひとえ)・打衣(うちぎぬ)・表着(うえのきぬ)・袴(はかま)・唐衣(からぎぬ)・裳(も)の順に着用する。
唐衣・裳は正装なので、平常は、打衣までである。打衣は、袷(うちき)ともいい、五枚重ねて着るのを五衣(いつゝぎぬ)という。
- 3 雛形三千風 (特殊資料)
木村画・丹羽庄兵衛刻
版本三冊 半紙判 小袖柄100種 京都 小川源兵衛 延享二年(1745)刊
小袖全体の絵柄を百番まで、それぞれ名を付けて描いている。衣裳雛形本といわれるものである。
- 4 四季模様百趣 (特殊資料)
河原崎晃洞著
四冊(192種) 帖装 33cm 帙入 京都 内田美術書肆 昭和13年刊
四季の風景を図案化し、短冊状にまとめて、192種の模様を収録してある。

- 5 菓子模様 (特殊資料)
亀屋会著
色刷版本三帖 帖装 半紙判 横本 京都 藤沢文二郎 大正九年刊
和菓子の形・模様を銘をつけて描いたもの。
- 6 小紋百趣 (特殊資料)
大野賢光著
一冊 帖装 22cm 帙入 東京 美術出版社 昭和28年刊
編者の蒐集した小紋の図柄を百点収録したもの。
小紋は、大紋・中形に対しての名称である。文字どおり、小さい文様を布地いっばいに型染したものの。
- 7 小紋帳 (特殊資料)
一冊(柄見本129種貼合) 半紙判 横本 「戸塚町矢部 金子竹次郎用具」
小紋の図柄を彩色し、図柄に番号を付して、柄見本としたもの。
- 8 さらさ型手本 (特殊資料)
一冊 美濃判 染型集 彩色図158種貼合
更紗の図案を和紙に刷り、それを貼り込んだもの。
- 9 更紗図譜 (特殊資料)
稲葉通龍補正
版本一冊 美濃半紙判 図入 大坂 浪華書林 天明五年(1785)刊の後印
本 題簽なし
更紗の概説、制作の仕方等の記述の後、図版を掲載している。図柄の白抜の部分には、彩色の指示がしてある。
- 10 古金襴裂集 (特殊資料)
裂地貼込一冊(二十三丁) 半紙判 裂地194点
実物の金襴のはぎれを貼り込んだもの。
金襴は、平織・綾織・縞子織などの地組織の上に金糸を織込んで模様を表した織物。
- 11 縞帳 絹物之部 (特殊資料)
裂地貼込一冊 31cm [明治三十一年七月]制作
縞柄の絹織物のはぎれを貼り込んだもので、呉服店の柄見本として使われたものらしい。
- 12 古渡唐棧譜 (特殊資料)
裂地貼込一帖 24cm 折本 両面七十余種 箱入 付 別冊解説

唐棧は、唐棧縞・唐棧留の略称で、木綿の縞織物の一種である。オランダ船によって、江戸初期頃渡来したといわれ、渡来の年代によって古渡り・中渡り・新渡りなどの区別がされている。

- 13 花襲（はなかさね） （特殊資料）
一冊（襲雛形100図） 32cm 付 色見本48種・紋雛形目録 京都 市田
弥一郎 明治31年刊

襲は、一般的には、着物を重ねて着ることであるが、襲色目といって、平安時代に始まる女性の重ね着の配色。上着と下着、表と裏の色彩調節の美しさを表す言葉でもある。また、四季の配色とも密接なつながりをもっている。本書は、四季の花を中心とした風景美を服飾雛形にしたものである。